

江戸前カレイ復活へ初の放流



東京湾遊漁船協組が羽田沖に1万尾

東京湾遊漁船業協同組合（飯島正宏理事長）では、初のマコガレイ稚魚放流を4月4日、東京湾の羽田沖で実施、約1万尾を放流した。

この日は東京都大田区平和の森公園にある船宿「まる八」の船着き場に同組合員らが集合、稚魚輸送車も到着、午前9時30分より一連の作業を開始。今回、放流するマコガレイの稚魚は（公財）神奈川県栽培漁業協会にて昨年12月下旬より孵化育成してきたもので、測定したところ平均39ミリ。その稚魚を組合員が輸送車から放流船に積み込み直ちに出發して羽田沖の

浅場に到着すると一斉に放流。その後、速やかに帰港して終了した。

東京湾遊漁船協組では毎冬マコガレイを対象とした「江戸前つり大会」を開催して、多くの釣りが、その江戸前カレイを

更に増やそうと、今回の放流に至った。ただ、従来その稚魚の入手が困難だったが、今回ようやく入手することができ、同組合にとつて永年の夢が叶ったわけである。マコガレイの放流は千葉県、神奈川県などで実施して

きているが、東京都の水域では初めて。カレイは成長が遅いが、1年後に約10センチ、2〜3年で20センチ程度に成長するものと見込まれている。



が、今回の放流に關して、飯島正宏理事長は「江戸前の釣りとしてハゼ、キス、アナゴなど色々あるが、カレイは冬の釣りの対象となる。また、羽田沖は人工干潟を造成しており、その浅場ではキスなど産卵しているが、カレイの産卵場としても期待している。このカレイの放流は組合にとつても念願の事業で今後も継続していきたい」と語っている。

神奈川県産のマコガレイを測定してから初の放流